

根津神社 第二客殿（舞姫の家）

— 森鷗外旧居・旧赤松家住宅 —

= 舞姫の家（森鷗外旧居）沿革 =

1886 (明治19年)		◎海軍中将、男爵赤松則良が上野花園町に建設
1889 (明治22年)	3月	◎赤松則良の長女登志子と結婚
	6月	◎上野花園町の赤松家の家に移る
	9月	◎『於母影』を発表
1890 (明治23年)	1月	◎『舞姫』を発表
	8月	◎『うたかたの記』を発表
	9月	◎長男於菟誕生。まもなく、妻登志子と離婚
	10月	◎千駄木へ引っ越し『千朶山房』と名付ける
		:
1943 (昭和18年)		◎水月旅館創業（森鷗外旧居の隣）
1946 (昭和21年)		◎森鷗外旧居が売りに出され、水月旅館が購入
		:
1972 (昭和47年)		◎水月ホテル鷗外荘と改称、ホテル新築
		:
2020 (令和2年)	5月	◎水月ホテル鷗外荘閉館・移築先検討
2022 (令和4年)	10月	◎根津神社へ移築のため、解体
	12月	◎移築地の整地工事開始 (樹木伐採・石移動・既存池撤去)
2023 (令和5年)	4月	◎第1回クラウドファンディング実施
2024 (令和6年)	3月	◎第2回クラウドファンディング実施
	5月	◎建物建築工事・造園工事開始
	11月	◎第3回クラウドファンディング実施
2025 (令和7年)	7月	◎第二客殿（舞姫の家）竣工

森鷗外年表



解体から竣工まで2年9ヶ月の歩み



R4.09 移築地の様子



R4.10 鷗外荘解体工事



R5.03 樹木伐採後



R6.03 整地・既存池撤去



R6.05 杭による地盤強化



R6.07 建物基礎工事



R6.09 鉄骨トラス構造



R7.03 屋根葺き完了



R7.05 内装工事



R7.07 建物工事完了

森鷗外が千朶山房で1年あまりを過ごした後、観潮楼（現在の森鷗外記念館）へ移り住みました。森鷗外はガーデニング好きで観潮楼の庭には多くの植物が植えられていました。こちらの舞姫の家の庭にも鷗外の好んだ植物が植えてあります。シャラ、カイドウ、ウツギ、レンギョウ、アセビ、ユキヤナギなど。

森鷗外が住み、舞姫を執筆したことで有名になったこの建物ですが、持ち主であった赤松則良も立派な経歴の方。文京区の吉祥寺にお墓があるなど、文京区にも縁があります。

赤松則良 来歴



1841年12月13日生
森鷗外の最初の妻登志子の父。
海軍軍人、日本近代建艦技術の先駆者。

長崎海軍伝習所で測量術・航海術などを学び、1860年遣米使節として渡米、1862年西周らとオランダに留学。1876年横須賀造船所長となり鋼製艦の建造を指導。1887年海軍中将、のち横須賀鎮守府の司令長官等を歴任。明治期に静岡県磐田原台地に茶園を開拓しており、磐田市には邸宅が旧赤松家記念館として残されている。





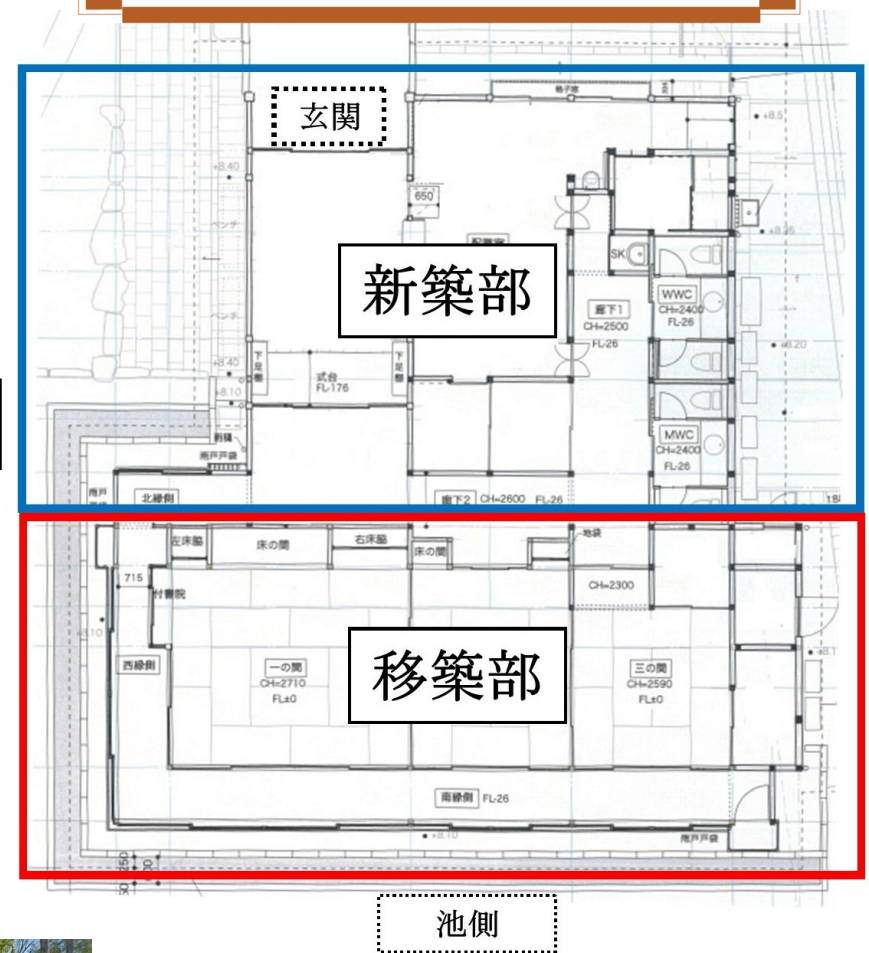
鷗外が住んだ当初は当然「一軒家」でしたが、その後改築されていく中で、移築時には、広間3間と縁側部分のみが残されていました。縁側に囲まれた構造は弱く現在の建築基準に適用しないため、構造の見直しが必要でした。そのため、木材だけでなく、一部鉄骨を使い、窓の建具も変更し、アルミ製雨戸を入れるなど構造を強化しています。



瓦も新しいものです



第二客殿（舞姫の家） 移築部分と新築部分



元の材を使っているところ



広間からのお庭の眺め



- ◎木の部分（柱、桁、縁甲板、天井、欄間、建具枠等）は出来る限り移築したのを使っていますが、柱の一部や窓枠等、新しい材も使用しています。
- ◎移築した柱や桁などの木材は全て洗いをかけ、塗料や汚れを落としてあります。
- ◎割れや欠けのあった部分は丁寧に補修してあります。



窓、畳、照明、壁材、ふすま紙、障子紙等は新しくなっています